



中高生とともに差別と闘う

『十代学びの瞬間 (とき)』

吉成タダシ (うずしおブランチ代表)



十代学びの瞬間 (とき)

前号で中学生集会のまとめを終えるつもりだったのですが、どうしても紹介したい感想があるので紹介させていただきます。中学生集会を卒業して一〇年以上が経ち、今は広島で働いているマオです。

*

この度は、五月の実行委員会や前日の夕食会も含め、参加させていただきありがとうございます。

まず、集会そのものの感想を書きます。

全体会に入る前の狭山事件・石川さんの追悼動画、これを流すことを決めた学生の皆さんに感謝しました。今年の三月に石川さんのニュースを見た時、「いつたいどれだけの若者がこの事件について知っていて、この報道に注目するだろうか」と感じたことを思い出しました。恥ずかしながら、たぶん私だって、学生時代の学習がなければそんなこと気にも留めなかったんだろうと思います。

大人になって感じることはありません。この世の中には、人権問題とされる課題がたくさんあります。ここ数年のインバウンド増加が国籍・民族差別を、身近なトイレや銭湯を覗けばジェンダー問題を、いじめ問題なども近年の象徴といわれる人権問題でしょう。ですが、部落差別 (問題) って聞かないんです。目にしないんです。こんなにみんな差別に敏感な世の中なのに。これってどうしてだろうって考

えていました。私の肌感でしか捉えられないので間違っていたらすみません。「世間話」「井戸端会議」などという言葉があります。特にアルバイトの方とお話ししているのと、何でそんなことまで知ってるの? ってことを知ってたりします。「あそここの家族、なんか感じ悪い」「あそここの家とは、関わらない方がいいらしい」

そんな言葉の裏に隠れてしまっているのが、部落差別ではないかと私は思うのです。なぜ、その地域出身の人と関わらない方がいいと言われているのか、その歴史を、誤解を知ろうとしないのです。その話題を出すことはいけないことだと、深く考えようとしなければと思うんです。

何十年も生きてきた人の考え方を考えるのは難しいです。違うといっても軽く流されて終わります。だからこそ、学生の皆さんが部落問題について考えることって、とても大切で、将来の自分を守るために必要だと思います。

私も今回、この集会に参加することをパートナーに伝えた時、ほんやりと「人権の集会だよ」と言うことしかできませんでした。学生の頃はあんなに自信を持って人権集会へ行っていたのに、そんな自分にショックでした。この機会に、ニュースの出来事を交えて話してみようと思います。

語りたい欲が溢れすぎて自信満々に手を挙げる子、勇気を出して少し弱々しく手を挙げる子、みんなが発言しやすいように無言の

間を繋いでくれる子、手を挙げるか悩んでいる近くの子を励ます子、マイクを持つ人へ熱く、真剣に、時に見守るように見つめる子……。いろんな学生さんがいました。その子たち全員がとても格好良かったです。語り合うパワーってすごかったんだって思い出しました。

今年の健康診断の血液検査の結果が良かったら、献血にも行こうとも思いました。将来欲しいと思っている子どものことも考えました。祖父母・親・弟のこと、パートナーのことも考えました。

最後に、皆さんへのメッセージで終わりにします。

〈中学生の皆さんへ〉

たくさんの方の前で手を挙げることは、とても緊張したと思います。今回惜しくも手を挙げられなかった人もいいと思います。そのどちらも正しいとお姉さんは思います。手を挙げた人は、その前のめりの姿勢と自分の言葉で伝えられたことを。手を挙げられなかった人は、緊張や言いたくないという気持ちに嘘をつかなかったことを、褒めてあげてください。何でも言える人はすごいですが、何でも言うことが正義な訳ではありません。でもどちらの人にも、間違いがあつたらそれは正していけるような大人をめざして欲しいと思います。キミたちはとっても若い! お姉さんは羨ましいのです (笑)。

〈高校生の皆さんへ〉

まず、一人一人が個性強すぎて面白すぎますので、是非そのまま素敵な社会人になってください。

自分の将来を考えろ、社会人として当たり前を受け止めろ、と言われて難しい時期だと思っています。そんな時でも中学生のために、格好いい姿を見せてくれようとする皆さんは、これまた格好良かったです。一歩引いた立ち位置で、会を作ってくれてありがとうございます。この先の未来を生きていくときは、常に自分を大切に。息抜きもしてください。

〈先生方へ〉

十年以上経っても、県外へ出て、関わりを途切れさせないでいてくれて、ありがとうございます。中学生集会を支えてくださり、ありがとうございます。今回初めましての先生もおられました。この先またご縁が深まっていくことを楽しみにしております。私にできることがあれば、ご協力させていただきたいので、いつでもお声がけください。

*

もっと早くにすべきことは、これでした。それに気づくまでに、どれだけ多くの大切な人材を失ってきたか。取り戻すことはできませんが、その反省として、いま人権ことも塾があるのだと思っています。一年間では無理です。中学三年間でも無理です。人それぞれかもしれませんが、中高の十代の学びが、その後の人生において大きな意味を持つのだと思います。だからこそ私たちは、人権ことも塾をします。それが、私たちの生き方です。